

# 28 集落ぐるみのサル対策を支援

## ■ さぬき市長尾上名自治会 ■

(東讃農業改良普及センター 矢木聖敏)

### ●対象の概要

さぬき市長尾上名自治会は、さぬき市南西部に位置し、西に鴨部川、東になだらかに続く雑木林に挟まれた南北に細長い集落である。戸数は27戸で、そのうち22戸が農家であるが、水稻や家庭菜園など自給のための兼業農家が多い。農地の多くは、近隣の担い手農家が借り受け、加工向けキャベツや麦の栽培を行っている。

### ●課題を取り上げた理由

上名自治会には平成15年頃からサルの群れが出没し始め、家庭菜園や家庭果樹のほか担い手農家が栽培する麦やキャベツにも被害が発生していた。サルの出没は年を追う毎に激しくなり、18年頃には家屋の周りに出没したり人が威嚇されるまでになってきた。

平成25年7月、自治会の有志から出没するサルの被害に困っているのではとかならないかとの相談があり、東讃普及センターとさぬき市役所が連携しながら集落ぐるみのサル対策支援を推進していくことになった。

表－1 上名自治会住民の声の変化

対策実施前(H25.7)	対策実施後(H26.10)
<ul style="list-style-type: none"><li>●とにかく駆除しかない</li><li>●猟友会の人に対応してくれない</li><li>●女性や子供がサルに威嚇される</li><li>●花火では全く効果がない</li><li>●最近では1日中いることがある</li><li>●対策が手遅れであり、どうしようもない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○サルの出没が減った</li><li>○サルが山から下りてこなかった</li><li>○クリが穫れた</li><li>○カキがたくさん成っている</li><li>○隣接自治会の人からうらやましがられる</li></ul>

### ●普及活動の経過

#### 1 サル対策講習会の開催

自治会からの要請を受け平成25年7月、サル対策の取り組み方を説明するための講習会を開催した。説明にあたり、さぬき市内でサル対策に成功している事例を紹介し、住民の主體的な取り組みが成功のポイントとなることを理解してもらった。同年10月にも講習会を持ち、

集落ぐるみで総合的な対策に取り組むことの必要性を理解してもらうことに努めた。

#### 2 アンケートの実施

サル被害の実態を把握するとともに対策実施後の評価の参考にするためにアンケート調査を行った。結果、出没するサルの頭数は多いが加害レベルは追い払いを中心とした対策で対応できる群れであることがわかった。また、自治会内には、カキ、クリ、スモモなどの果樹が多いことから、家庭果樹の管理状況についても調査した。

#### 3 追い払い道具づくり講習会と団結式

サル対策取り組みの基本となる追い払いを効果的なものとするために、ロケット花火発射装置づくりのための講習会を開催した。また、自治会内には動物駆逐用煙火を使い追い払いを行う計画があったので、煙火使用者に対する講習会受講を勧め安全使用を呼びかけた。

サルの出没が多い夏に向け、平成26年6月には追い払い団結式の開催を提案するなど、住民の意識高揚を図った。

#### 4 展示ほの設置

サル被害の多い家庭菜園の被害防止対策技術として、サツマイモの竹マルチ栽培とスイカ及びカボチャの受け棚栽培の展示ほを設置し、サルから守れる栽培方法を推進した。



図－1 サツマイモの竹マルチ栽培展示ほ

## 5 家庭果樹の剪定講習会の開催

自治会内に多い家庭果樹対策として、カキなどを低樹高化する「守れる果樹づくり」に向けた講習会を行い、サルの餌場にしない環境づくりを啓発した。

表－2 サル対策の取り組み

年、月	取り組み	内容
25年7月	サル対策講習会	取り組みの基本説明
10月	サル対策講習会	具体的な取り組み
12月	サル対策講習会	追い払い道具づくり、実態把握アンケート
26年1月	サルから守れる果樹・野菜づくり講習会	家庭果樹・野菜の栽培と守り方
3月	サル対策講習会	アンケート結果報告、家庭果樹・菜園の現地検討
4月	サルから守れる技術講習会	サツマイモの竹マルチ栽培実習、簡易侵入防止柵の作り方
5月	サルから守れる技術講習会	カボチャの受け柵栽培実習、ジャガイモの竹マルチ栽培実習
6月	サルから守れる技術講習会、追い払い団結式	スイカの受け柵栽培実習
6月～8月	サルの出没と追い払いの記録	サル出没と追い払い状況の記録
8月	家庭菜園、中型動物対策講習会	秋冬野菜の栽培と守り方、中型動物対策
27年2月	サル対策講習会	追い払い結果と今後の取り組み、家庭果樹・野菜の栽培と守り方

## ●普及活動の成果

### 1 意識の変化

集落ぐるみの取り組みを始める前には、「サルに対してはどうにもならない」という意見が多かった。しかし、複数回のサル対策講習会等を通じて継続的に情報提供を行ったところ、「自分たちのできることを地道に取り組むことが対策につながる」という住民が増え、サルの問題に対して冷静に取り組む姿勢がみえるようになった。

### 2 サル出没数の減少が集落の自信に

平成26年6月～8月の間のサルの出没と追い払い状況の記録からは、当初「追い払いではどうしようもない」と言われていたサルの出没数が大幅に減少したことが確認できた。

追い払いについては、サルの出没回数に対し約70%の高い割合で追い払いを実施できたことが確認できた。また、個人単独ではなく複数人での追い払いもみられた。

追い払い対策を積極的に取り組んだ住民は成果が目に見える形で表れたことで、「何とかなる」「やればできる」という気持ちが芽生えてきたようである。

### 3 家庭菜園の防御対策や果樹の管理に工夫

平成26年夏の家庭菜園26か所中19か所は何らかの対策が行われており、ネット柵とカンレイシャによる目隠しを組み合わせた防御を独自に工夫する農家がみられるようになった。

また、これまで放任状態だった家庭果樹を剪

定するなど農家個々の対策意識の高まりがみられるようになった。

表－3 サル目撃頭数の変化

農家	対策前 (H25.7-8月)	対策後 (H26.7-8月)	減少した頭数
A	100頭	30頭	-70
B	50	30	-20
C	50	12	-38
D	40	0	-40
E	30	30	±0
F	30	7	-23
G	30	5	-25
H	20	4	-16
I	20	4	-16
J	20	0	-20

備考：アンケート及びサル出没記録より整理

## ●今後の普及活動の課題

上名自治会としては、サル対策に積極的に取り組む人が増えつつあるが、集落内には、まだ追い払いなどに対する意欲の低い人が存在することや、人の気配が少ないなど環境条件が悪いため被害を受けやすいほ場がある。

また、キャベツや麦を栽培している入り作農家による追い払いや収穫後の残さ処理が不十分なためサルを誘引している部分があるので、担い手農家に対する啓発が必要である。

今後とも啓発活動を継続するとともに集落内の共同取組体制づくりや効果的な集落柵の設置などを推進していくことが必要である。



図－2 追い払い団結式 (H26. 6. 9)